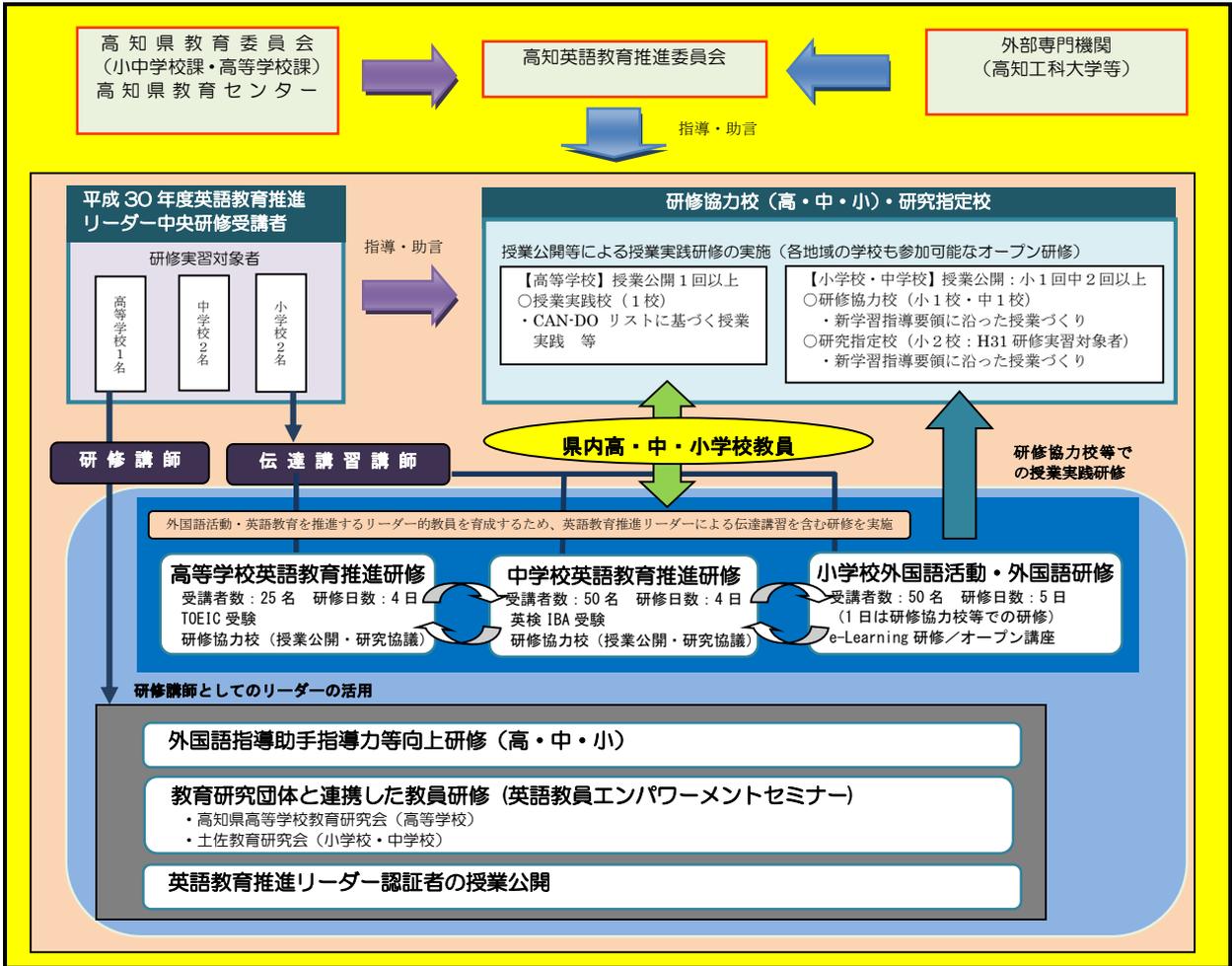


(様式3-2)

高知県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合	
【現状】	・求められる英語力を有する教員の割合（高等学校 70.4% 中学校 28.5%）
【課題】	・教員の英語力が生徒の言語活動の質を高め、英語力向上につながることを実感できていない。また、その因果関係を実証するような効果的な研修ができていない。
【目標】	・平成31年度までに高等学校75%、中学校40%の目標を達成し、2022年度までに高等学校80%、中学校50%以上の目標達成を目指す。
【方策】	・新学習指導要領の趣旨を実現した授業づくりを目的とした研修を実施する。求められている授業づくりを参加者全員で創り上げていく「授業づくり講座」を実施することで、生徒の英語力を向上させるための授業には、自身の英語力が必要であるということが実感できる。
②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合	
【現状】	・求められる英語力を有する生徒の割合（高等学校 32.8% 中学校 33.9%）
【課題】	・付けたい力を明確にした指導とその指導の成果を的確に測るテストが実施できていない。また、英語の基礎的な力である語彙や表現の定着を図るための家庭における学習量が不足しているとともに、学習の質にも課題がある。
【目標】	・平成31年度までに高等学校40%、中学校45%の目標を達成し、2022年度までに高等学校・中学校ともに50%の目標達成を目指す。
【方策】	・英語担当教員の指導力の向上を目指した上記①の研修の実施 ・中学校「授業改善プラン」（学校ごとの英語力向上に向けたPDCAサイクル）に基づ

	<p>いた学校支援訪問指導（授業公開・プランを基に協議）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高知これ単語彙検定」及び読み物教材の活用推進を通して、家庭における学習量及び質の改善を図る。 ・次のように指標を明確にして、授業改善に向けたPDCAサイクルを構築する。 <ol style="list-style-type: none"> ①「高知県学力定着状況調査」の実施 <p>平成24年度から、年1回、中学1，2年生を対象とした県学力定着状況調査を実施し、4技能のうち「聞く・読む・書く」の3技能の状況を調査している。本年度は調査結果の分析を生かした授業改善の在り方について各学校1名参加の悉皆研修を行い、英語力向上を図る。</p> ②「高知県英語4技能評価テスト集」の作成、配付、活用の促進 <p>※平成30年度までに全学年用を作成、配付</p> <p>目的 新学習指導要領に示された英語力を確実に身に付けるための指導と適切な評価が各学校で日常的に実施されることを目的とする。</p> <p>内容</p> <p>（冊子）平成27・28年度実施の「英語教育改善のための英語力調査」で公表されている調査問題を参考に、4技能（5領域）を測るテスト問題が全6回（定期テストの回数＋学年末）分と各回の練習問題</p> <p>（CD）各校の特徴、実態や使用教科書に合わせカスタマイズ可能な電子媒体リスニング用音声CD</p> <p>上記①を年度末に学習内容の定着状況を測る指標、②をより短いスパンでの定着状況を測る指標として効果的に活用することで、生徒の英語力を確実に身に付ける。</p> ・県教育委員会内の関係する全ての部署で中・短期のスパンで達成値を把握し、成果のある取組の事例を取り上げ、次年度の参考としてHP等で広く紹介し指導に役立てる。 ・学習指導要領の改訂に伴い、平成27年3月に策定した「高知県英語教育ガイドライン」に基づく数値目標や目標達成に向けた行動指針、行動計画を見直し、県全体で英語教育推進に向けた取組を再度確認する。
<p>③「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）</p>	
<p>【現状】</p> <p>【課題】</p> <p>【目標】</p> <p>【方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習到達目標の整備状況（高等学校 設定100% 公表87.5% 達成状況の把握75%）（中学校 設定100% 公表21.7% 達成状況の把握58.5%） ・「CAN-DOリスト」を公表することの意義が周知されていない。また、「CAN-DOリスト」が学習到達目標であるということが伝わっていない。更に、授業によって付けた力を適切に測るテストが実施できていない。 ・平成31年度までに、高等学校・中学校とも学習到達目標を公表し、その達成状況を把握している数値を100%とする。 ・高等学校、中学校ともに、平成27年度段階で「CAN-DOリスト」の作成については100%を達成している。今後は、学校支援訪問の際に公開する授業の学習指導案に「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を位置付けさせるとともに、その評価方法についても指導助言を行う。また、各校が生徒や保護者等に「CAN-DOリスト」を公表することの意義についても周知する。 ・高知県教育委員会作成の「高知県英語4技能評価テスト集」の問題が「CAN-DOリスト」を達成するための問題であることを様々な研修の場で周知し、活用を促進する。
<p>④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合</p>	
<p>【現状】</p> <p>【課題】</p> <p>【目標】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が英語による言語活動を授業時間の50%以上行っている割合（高等学校47.7% 中学校82.2%） ・文法や教科書の内容についての説明が多く、実際に英語を使って言語活動をするという今求められている授業のイメージが伝わっていない。 ・平成31年度までに高等学校65%、中学校100%の目標を達成し、2022年度には中・高等学校ともに100%の達成率を目指す。

【方 策】	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に沿った資質・能力ベースの授業づくりを目指し、拠点校において、授業づくり講座を実施する。 (授業づくり講座) ①教材研究会（模擬授業、単元計画及び授業についての協議、講師からの助言） ②授業研究会（①で検討した指導案を基に授業実践、協議、講師からの助言） ※①②を1セットとして年2セット実施する。 ※誰でも参加することができるよう、全ての授業づくり講座を公開する。 ・生徒の言語活動の割合及び英語担当教員の英語使用量を増加させるため、英語教育推進リーダーによる研修を通して、英語による授業の進め方や効果的な言語活動の在り方について理解を深め、授業力の向上を図る。 ・英語教育推進リーダーが定期的にモデルとなる授業を公開し普及する。
⑤「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況	
【現 状】 【課 題】 【目 標】 【方 策】	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーキングテストの実施回数（高等学校 2.0回 中学校 3.6回） ・ライティングテストの実施回数（高等学校 2.5回 中学校 2.3回） ・授業で付けた力を適切に測る方法が理解されておらず実施されていない。 ・平成31年度までに高等学校はスピーキングテストを4回、ライティングテストを4回実施し、2022年度にはそれぞれ5回実施を目指す。中学校は、スピーキングテストを5回、ライティングテストを5回実施する。 ・「授業改善プラン」に基づく学校支援訪問や英語教育推進研修を通して、「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の設定及び達成状況の把握を意識させ、指導と評価の一体化を図る。 ・英語教育推進リーダーによる研修を通して、「話すこと」及び「書くこと」の言語活動や評価の在り方について理解を深め、自校における指導と評価に生かし、授業改善に努める。 ・パフォーマンス評価の回数を増やし、評価に占める割合を増やす。 ・平成28年度作成・配付のリーダー教員による中学校授業実践DVD（話すことのパフォーマンステストを含む）を基に、評価規準・基準及び評価方法について周知する。 ・県教育委員会作成の「高知県英語4技能評価テスト集」の活用を促進する。
⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況	
【現 状】 【課 題】 【目 標】 【方 策】	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が発話の50%以上を英語で行っている割合（高等学校 58.2% 中学校 83.9%） ・教員が英語で授業を行うことの意義を理解できていない。また、「授業を英語で行う」と答えた教員の中にも、ただ英語で説明するだけの授業になっていることもある。 ・平成31年度までに高等学校は65%、中学校は100%の目標を達成し、2022年度には、高等学校は75%の達成率を目指す。 ・英語教育推進リーダーによる研修を通して、英語による授業の進め方や効果的な言語活動について理解を深め、生徒の言語活動の割合及び英語担当教員の英語使用量を増加させる。 ・研修協力校の公開授業研究会や拠点校での授業づくり講座に参加し、資質・能力ベースの授業づくりや授業の進め方等について学ぶ。 ・研修において教員の英語力を高め、外部検定試験受験を奨励する。
⑦域内小学校における相応の英語力を有する教員の割合	
【現 状】 【課 題】 【目 標】 【方 策】	<ul style="list-style-type: none"> ・相応の英語力を有する教員の割合（0.5%） ・英語力を向上させるための研修等が不足している。 ・平成31年度までにCEFR A2レベル程度の取得率10%の目標達成を果たす。 ・授業の中で英語を使い、自らの英語力向上を目指すため、県内小学校3校を拠点校として位置付け、授業づくり講座を開く。中学校と同じく、教材研究会及び授業研究会を1セットとし、参加者全員で授業をつくる教員のための学び場である。多くの英語担当教員の英語使用量が自校の授業で増加する取組を行う。

⑧研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合	
【現 状】	<ul style="list-style-type: none"> ・研修実施回数（高等学校4回 中学校4回 小学校5回） ・研修受講者数（平成27年度から平成30年度まで） 高等学校 143名（90.0%） 中学校 148名（74.0%） 小学校 181名（93.0%）
【目 標】	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校・高等学校とも平成31年度までに100%の目標達成を目指す。

（3）研修の体系と内容の具体

<p>【研修の体系】</p> <p>外部専門機関と高知県教育委員会・高知県教育センターとで、高知英語教育推進委員会を組織する。推進委員会の委員がそれぞれの研修について指導・助言等を行い、さらに研修の内容を深め、研修効果を高める。また、学校支援訪問等において、実際の授業に研修の内容が生かされているかという視点からも評価を行う。9月に中間評価、2月に総括の英語教育推進委員会の会議を行い、各研修等の目標達成状況等から成果と課題を確認し、改善のための方策を考える。その方策を次の研修内容に反映させるなどして、適切にPDCAサイクルをまわす。</p> <p>【研修内容の具体】</p> <p>研 修 名： 英語教育推進研修</p> <p>研修対象者： 高等学校・中学校・特別支援学校英語教員</p> <p>研 修 目 的： 英語教員の指導力、英語力を向上させる。</p> <p>内 容： <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育推進リーダーによる授業力向上講座 ・外部有識者によるワークショップ ・中高の英語教員による英語授業に関する協議 </p> <p>受講予定者数： <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校 25名（1グループ）×4回 ・中学校 25名（2グループ）×4回 </p> <p>英語力評価テスト： 外部検定試験（高等学校 TOEIC L&R 中学校英検 IBA）</p> <p>研修の評価方法： 参加教員によるアンケート（各研修終了後、全研修終了後）</p> <p>次年度以降： 平成31年度まで実施（平成27年度から31年度までに全中高英語教員受講）</p> <p>外部専門機関及び研修協力校との関わり： 国際教養大学 内田浩樹教授からの助言・指導・講義等</p> <p>研 修 名： 小学校外国語活動・外国語研修</p> <p>研修対象者： 小学校教員（外国語活動・英語指導のリーダー的教員）</p> <p>研 修 目 的： 小学校教員の英語力・指導力を向上させる。</p> <p>内 容： <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育推進リーダーによる授業力向上講座（集合研修5日のうち1日は拠点校の授業づくり講座に参加） ・外部有識者によるワークショップ ・e-Learningによる英語力向上（自宅や職場で適宜実施） ・研修受講者は勤務校で外国語教育推進の中核者としての役割を担い、研修内容について、校内研修等を実施し、教育センターに実施状況を報告。 </p> <p>受講予定者数： 小学校 50名（2グループ）×5回</p> <p>英語力評価テスト： e-Learning レベル診断</p> <p>研修の評価方法： 参加教員によるアンケート（各研修終了後、全研修終了後）</p> <p>次年度以降： 平成31年度まで実施（平成27年から平成31年の5年間ですべての公立小学校に英語の教科化に対応できる教員を1名以上育成する）</p> <p>外部専門機関及び研修協力校との関わり： 関西学院大学 泉恵美子教授からの助言・指導・講義等</p> <p>研 修 名： 英語教員エンパワーメントセミナー</p> <p>研修対象者： 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校英語教員（希望者）</p> <p>研 修 目 的： <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育に関する知識の習得と実践的指導力・教科の専門性を向上させる。 </p>
--

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究団体と連携して研修を実施することにより、自主研修組織を活性化させる。
内 容 :	外部講師によるワークショップ
受講予定者数 :	40 名
研修の評価方法 :	参加教員によるアンケート
次年度以降 :	小中高の教員が交流できる自主研修組織を活性化させるため、継続実施予定
外部専門機関及び研修協力校との関わり :	朝日大学 亀谷みゆき准教授からの助言・指導・講義等
研 修 名 :	小・中学校「英語科授業づくり講座」
研修対象者 :	県内全ての教員（悉皆対象者は各地域で英語を推進している加配教員）
研 修 目 的 :	・英語教育に関する教科の専門性と新学習指導要領に沿った授業づくりについて学ぶことで、教員自身が授業改善に向けて主体的に学ぶ場を提供する。
内 容 :	①教材研究会（模擬授業、単元計画及び授業についての協議、講師からの助言） ②授業研究会（①で検討した指導案を基に授業実践、協議、講師からの助言） ※①②を1セットとして年2セット実施する。
受講予定者数 :	講座により異なる
研修の評価方法 :	参加教員によるアンケート
次年度以降 :	継続実施予定
外部専門機関及び研修協力校との関わり :	文部科学省 山田誠志調査官及び鳴門教育大学 中妻佳代准教授からの継続した指導・助言等
研 修 名 :	オンライン・オフライン研修
研修対象者 :	中学校英語教員（悉皆10名）
研 修 目 的 :	・生徒の「話すこと」「書くこと」といった発進型の技能における課題を解決するため、英語教授法等の理論に基づいた効果的な指導法を身に付ける。
内 容 :	日常的なオンライン研修と、長期休業中に実施するオフライン研修
受講予定者数 :	10 名
研修の評価方法 :	受講者によるアンケート及び TOEIC での英語力検証
次年度以降 :	継続実施予定
外部専門機関及び研修協力校との関わり :	文部科学省が委託したプログラム開発者からの研修プログラムの提供及び実施に対する支援
研 修 名 :	高知県外国語指導助手指導力等向上研修
研修対象者 :	外国語指導助手、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校英語教員
研 修 目 的 :	「語学指導等を行う外国青年招致事業」（以下、「JETプログラム」という。）による招致外国青年のうち、市町村（学校組合）立学校及び県立学校において語学指導に従事する者（以下、「外国語指導助手」という。）に対し、一層効果的な語学指導をするために必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、本県の外国語教育の充実を図る。
内 容 :	外部講師によるワークショップ
受講予定者数 :	160 名
研修の評価方法 :	参加教員によるアンケート
次年度以降 :	継続実施予定
外部専門機関及び研修協力校との関わり :	高知工科大学 長崎政浩教授、順天堂大学 マルセルヴァンアメルズフォート先任准教授からの助言・指導・講義等

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月	英語教育推進リーダー 打ち合わせ会 高知英語教育推進委員会 小学校外国語活動・外国語研修Ⅰ 英語教育拠点校事業連絡協議会	高知工科大学 長崎政浩教授 文部科学省 直山木綿子視学官
6月		
7月	英語教員エンパワーメントセミナー 英語教育推進研修（高・中）Ⅱ 小学校外国語活動・外国語研修Ⅱ・Ⅲ	朝日大学 亀谷みゆき准教授 国際教養大学 内田浩樹教授 関西学院大学 泉恵美子教授
8月	英語教育推進研修（高・中）Ⅲ・Ⅳ 小学校外国語活動・外国語研修Ⅳ 教育課程研究協議会（外国語）	
9月	高知英語教育推進委員会	・研修協力校・研究指定校における授業公開 ・拠点校での授業づくり講座実施 【講師】 中：文部科学省山田誠志調査官 小：鳴門教育大学中妻佳代准教授 ・オンライン・オフライン研修及び受講者の公開授業
10月		
11月		
12月	高知県外国語指導助手指導力等向上研修	
1月		
2月	教育課程研究協議会（高等学校外国語） 高知英語教育推進委員会 英語教育推進リーダー 打ち合わせ会	国際言語文化アカデミア 江原美明教授 高知工科大学 長崎政浩教授
3月		
【その他の取組】 英語教育強化プロジェクト事業		

